

# 事務局説明資料

(サステナブルファイナンス有識者会議における議論の視点)

令和3年2月10日  
金融庁

# 1. 議論の視点

- サステナブルファイナンスとの関係で金融行政をどう設計していくかは、まさに緊急の課題であると同時に、2050年までは継続的に工夫を積み重ねていかなければならない息の長い課題でもある。
- これを踏まえ、会議における議論の視点は、以下のように設定することでよいか。

## 時間軸

- 長期的に目指すべき方向性と、足元すぐにすべきこと、の2つの視点の両方を視野

## 議論の対象

- 幅広いESG課題をカバーするフレームで考えるが、2050年カーボンニュートラルの実現が当面の最重要ターゲット

## 会議の役割およびアウトプット

- 施策の方向性に関する「提言」や、必要に応じて、社会全般に向けた「メッセージ」を、報告書として取りまとめていただく
- 報告書を受けた施策の具体化は、金融庁において検討

## 2. 当面の進め方

- 今後3回(第2回～第4回会合)では、「開示の充実」「投資家への投資機会の提供」「金融機関による取組みの推進」をテーマとして、各メンバーから自由に御意見を頂戴する。
- 会合での意見・議論を整理し、第5回会合以降で、改めて、議論を掘り下げていただく。

### 個別テーマごとの議論

第2回:2月10日(水)

- 企業による気候関連開示の充実

第3回:2月中旬

- 金融資本市場を通じた投資家への投資機会の提供

第4回:3月上旬

- 金融機関によるサステナブルファイナンスの推進

### 「サステナブルファイナンス」に対する基本的な考え方

- 個別テーマの議論を進めつつ、たとえば、以下のような点も含め、「サステナブルファイナンス」の基本的な位置づけや意義についても確認いただくことが有益。

#### 【位置づけ】

- サステナブルファイナンスとは、個々の金融機関や金融商品のあり方にとどまらず、経済・産業・社会が望ましいあり方に向けて発展していくことを支えていく金融メカニズムの全体像、サステナブルな社会を支える金融資本市場のインフラと位置づけるべきではないか。

#### 【意義】

- 他方で、金融側からのサステナブルファイナンスの意義をどう考えるか。複数の論理があるか。
  - ・ 長期的にみて投融資の成果(リスク・リターン)を改善することが可能か。
  - ・ 負の外部性を低減することで、ポートフォリオ全体の利益を守ることが可能か。
  - ・ 最終投資家のサステナビリティ選好に応えることが可能か。